

第4回 信州大学の留学生のニーズ調査

—2008年11・12月調査において—

信州大学国際交流センター
佐藤友則

キーワード： 前回調査との比較、奨学金への不満、対日本人意識の改善、受入部局の意識

要旨

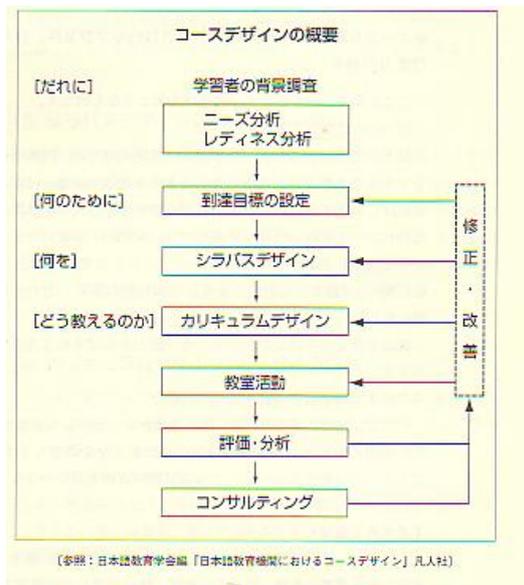
2008年11,12月に7年ぶりとなる信州大学の留学生を対象にしたニーズ調査を実施し、2001年調査との比較を行った。その結果、留学生からの相談状況や対日本人意識の改善などは見られたものの、2001年調査当時と同様に奨学金と宿舎などの問題に悩む留学生が多く、差別と疎外感を感じている者も存在する状況が浮き彫りになった。この状況の改善のためには、国際交流センターでの努力だけでなく、各受入部局での努力と意識改革が必要とされていることを述べた。

I. はじめに

信州大学に留学生または国際交流に焦点を当てた教育・研究・業務を行う部局が発足して、10年が過ぎようとしている。その間、留学生センターが発足した1999年から3年連

続して留学生を対象にしたニーズ分析が行われており、その結果は佐藤・秋庭(1999)他で公表されている。その後、2008年11,12月に4回目となるニーズ分析が7年の間を空けて実施された。本稿では、その4回目のニーズ分析の結果を詳細に述べるとともに、2001年のニーズ分析と2008年のそれとの比較を行うこととする。

ニーズ分析は、教育において非常に重要視されているものだが、教育だけでなく国際交流業務全般のベースとなりうるものである。教育のコースデザインにおいてよく提示される左記のような図がある(図1は『日本語教育機関におけるコースデザイン』(1991)より)。



〔図1〕 コースデザインの概要

教育機関におけるコースデザイン』(1991)より。

図1を見ると明らかなように、ニーズ分析はその後の到達目標設定、シラバス&カリキ

ュラム・デザイン、実際の授業などのベースになっている。また、評価は学生にのみ行われるものではなく、コース全体への評価も行われ、常によりよいコースになるよう改善が行われていく。このことは国際交流業務についても言うことができる。つまりニーズ分析は、信州大学（以下、信大とする）の留学生環境整備の目標を定め、内容・方法を決定し、それによって行われた業務を見直す際の資料を得るために有用なのである。

このように、ニーズ分析の結果は、留学生の学習・生活環境の整備などを主要な業務の一つとする国際交流センター（以下、センターとする）および国際交流課、そして留学生を受け入れている各部局において適用されうる。ニーズ分析の結果をふまえ、そこから浮かび上がる留学生の不満・不安などを正確に把握し、それらを解消することを到達目標として業務を進める必要があるのである。また、定期的に自らの業務内容を評価する意味でも再度のニーズ分析を行い、以前の不満・不安が減少しているか変化がないかを検証し、それによって業務内容の改善を図らなければならない。ルーティーンとなっている煩雑・多忙な業務を繰り返すばかりでは、業務の主対象となる留学生を忘れがちになり、業務の結果を見て業務全体を改善するという事は望めない。今回のニーズ分析は、信大に留学生の環境整備を専門とする部局が発足し、各部局と連携のうえでの留学生環境整備が開始されて10年でどのような進歩が見られたか、今後新たにどのような改善が必要かをみるうえでも重要なものと位置づけたい。

II. 信州大学国際交流センターの留学生関連業務

ここで現在のセンターおよび国際交流課の留学生関連業務内容を概観してみたい。

1) 国際交流面

- ①国際交流会館、大学の借り上げアパートなど宿舍関連業務
- ②ビザ、資格外活動許可など留学生の身分や資格に関わる業務
- ③日本人学生や一般の日本人、日本社会との交流業務
- ④ガイダンス実施や金銭面・精神面を含む様々な相談の受付
- ⑤奨学金などの受付（授業料免除は学生支援課）
- ⑥卒業・修了留学生のフォローアップ業務
- ⑦海外の協定校との交換留学生の受入・派遣業務および新たな協定校開拓

2) 教育面

- ①初・中・上級までの日本語教育
- ②主に交換留学生の専門教育のサポート

2006年度に留学生センターが改組されて国際交流センターとなって以降、業務は大きく拡大し、内容も多岐にわたるようになった。これらの業務を留学生がどのように評価しているかは、今後の国際交流センターおよび国際交流課の業務の量・質の見直しにも利用できると思う。ただし、留学生は上記の業務の他に各部局での支援および専門教育を受けている。それらも含めて考えていく必要がある。

Ⅲ. 調査の方法

Ⅲ-1. 調査票の作成

今回の調査では、2001年ニーズ分析結果との比較が行えるように、多くの項目は2001年調査票を踏襲した。しかし、時代の変化があり、新たに見てみたい項目もあったため、複数の項目に加除・修正を加えて2008年調査票を作成した。以下に調査票をあげる。なお、このうち2001年ニーズ分析と同様の項目については「※2001」と記述する。

1. 属性

1-1. あなたは何学部（研究科）の学生ですか？（ ）

また、正規生ですか、非正規生ですか？（どちらかに○）

1-2. 奨学金を受給していますか（どちらかに○）。 ①はい ②いいえ 「※2001」

1-3. アルバイトをしていますか（どちらかに○）。 ①はい ②いいえ 「※2001」

2. 住まい

2-1. 現在どちらに住んでいますか？

- ①国際交流会館 ②学生寮 ③民間アパート ④公営住宅（市営住宅など）
⑤その他（ ）

2-2. 上の質問で①以外を選択した人に質問します。月額の家賃（円）はいくらですか？

- ①¥9,999以下 ②¥10,000～14,999 ③¥15,000～19,999 ④¥20,000～24,999 ⑤¥25,000～29,999
⑥¥30,000～34,999 ⑦¥35,000～39,999 ⑧¥40,000～44,999 ⑨¥45,000以上

3. 相談

3-1. 信州大学に入学してから今までに、自分一人ではどうしようもないほど、困ったことがありますか。

- ①ある ②ない 「※2001」

3-2. 困った時にすぐ相談できる人が何人いますか（単一回答）。

- ①0人 ②1～2人 ③3～4人 ④5～6人 ⑤7人以上 「※2001」

3-3. 困った時に誰に相談しますか（複数回答可）

- ①留学生の友達 ②留学生の先輩 ③日本人学生（チューター含む） ④指導教員
⑤学部の留学生担当教員 ⑥国際交流センター教員 ⑦大学の保健師 ⑧学外の日本人
⑨学部の事務職員 ⑩国際交流センター事務職員 ⑪誰にも相談しない ⑫その他（ ）

「※2001 選択肢は別」

3-4. どんなことで、よく困っていますか。（複数回答可）

- ①「お金」 ②研究・勉強 ③卒業・修了 ④卒業後・修了後 ⑤住居
⑥友人関係 ⑦家族 ⑧恋愛 ⑨自分の健康 ⑩その他（ ） 「※2001」

3-5. 研究・勉強面で、具体的に困っていることはありますか？（複数回答可）。

- ①論文が書けない ②講義を聞いても分からない ③資料収集の方法が分からない
④先生とうまくコミュニケーションがとれない ⑤その他（ ）
⑥特に困っていることはない 「※2001 選択肢は別」

3-6. 大学にどんな要望がありますか。自由に書いてください。

4. 日本語能力

4-1. 自分の日本語能力に自信がありますか（単一回答）。 ①ある ②まあまあ ③ない

「※2001」

4-2. もっと日本語の授業を多く受けたいですか（単一回答）。

- ①必要ない ②今のままで十分だ ③受けたい 「※2001」

4-3. 具体的にはどのような日本語能力を身につけたいですか（複数回答可）。

- ①先生等と専門について話し合う能力 ②講義を理解できる能力

- ③論文を書く能力
- ④論文を読む能力
- ⑤日本人との友人関係を深めていける能力
- ⑥日本事情・文化や日本人の考え方をよく知る
- ⑦就職に役立つビジネス日本語能力
- ⑧その他 () 「※2001 選択肢は別」

5. 日本人とのコミュニケーション

5-1. あなたは、日本人学生とどの程度接触していますか (単一回答)。

- ①あいさつのみ
- ②授業ではよく話すが、休みに会うほどではない
- ③放課後や休日に会ったり食事をする 「※2001」

5-2. 今後、学外も含め、日本人と接触する機会を持ちたいですか。

- ①持ちたい
- ②それほど持ちたくない 「※2001」

5-3. 日本人について、どう考えていますか。(複数回答可)

- ① (日本人は) 異文化をよく理解している
- ② 自分の国に興味を持ってきている
- ③私を仲間として受け入れてくれる
- ④留学生の国による差別がある
- ⑤留学生との交流に消極的だ
- ⑥表面的な付き合いが多く、親友にはなれない
- ⑦その他 () 「※2001 選択肢は別」

6. 卒業(修了)後の予定

6-1. 卒業(修了)後、どのような進路を考えていますか。(複数回答可)

- ①日本で就職
- ②日本で進学
- ③自国で就職
- ④自国で進学
- ⑤日本・自国以外で就職
- ⑥日本・自国以外で進学
- ⑦その他 () 「※2001 選択肢は別」

6-2. 上の質問で①を選択した人に質問します。就職へのサポート体制に意見・要望があれば書いてください。

7. 満足度

7-1. あなたの、信州大学に対する満足度をパーセンテージで教えてください (単一回答)。「※2001」

- ①満足度 100%
- ②満足度 80%
- ③満足度 60%
- ④満足度 40%
- ⑤満足度 20%
- ⑥満足度 0%

7-2. 上の質問で、満足度60%より上を回答した人に質問します。具体的にどのようなことに満足していますか。(留学生に対して親切だ、学習環境がいい等)

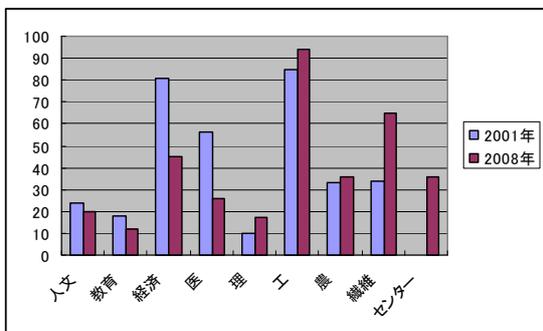
7-3. 上の質問で、満足度40%より下を回答した人に質問します。具体的にどのようなことが不満ですか。(留学生に対して不親切だ、学習環境がよくない等)

7-4. あなたの国にいる友人や家族に、信州大学への留学をすすめますか。

- ①はい
- ②いいえ
- ③わからない 「※2001」

Ⅲ-2. 調査対象者(全留学生)数および時期

調査対象者は、信大に 2008 年 11 月時点で在籍していた全留学生である。全体で 351 名おり、学部・大学院別には、人文 20、教育 12、経済 45、理 17、医 26、工 94、農(岐阜連大含む) 36、繊維 65、センター36 である。



[図2] 各局留学生数の変化

してみると、2008 年は全体で+10、人文-4、教育-6、経済-36、理+7、医-30、工+9、

これを 2001 年留学生数と比較してみると、その際に以下の点に留意する必要がある。2001 年当時の留学生センターには所属学生がいなかったが、2007 年 10 月以降、各学部
に所属していた大学間協定校からの交換留学生をセンターに集約した。そのため、2001 年と 2008 年の学部所属留学生数の単純比較はできない。その前提を踏まえたうえで比較

農（岐阜連大含む）+3、繊維+31、センター+36となる。経済および医学部の減少が顕著であり、繊維学部が増加していることが分かる。

今回の調査の時期は、2008年11、12月である。

Ⅲ-3. 調査の実施方法および使用言語

調査は、2008年11月22、23日に行われた全学国際交流旅行（乗鞍高原&飛騨高山）での全参加留学生への実施と、この旅行に参加しなかった留学生への電子メールでの直接調査、さらに留学生に関わる教員への依頼・回収により行われた。上記の調査票は、日本語版および英訳版を用意し、留学生が理解しやすい版で回答させた。

Ⅳ. 調査の結果および考察

以下2001年と2008年のニーズ調査の結果を並べて述べていく。1-1.などの表示は調査票の質問番号である。データは、括弧左に実数を括弧内に比率という形で記す。なお一部の結果においてはグラフや2001年調査結果は取りあげず、2008年結果のみあげる。

Ⅳ-1. 回収率

回収できた調査票は127名分だった。これは全体の36.2%に当たる。回収率が不十分であり、かつ調査対象者をランダム・サンプリングによって抽出して実施した調査ではないため、この調査結果をもって信大の留学生全体のニーズを把握できたとは言いがたいが、信大の留学生のある程度のニーズは読み取れると考える。

Ⅳ-2. 属性

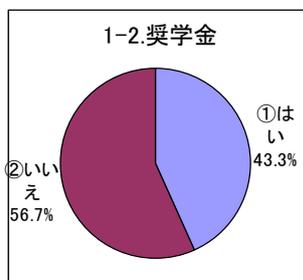
1-1. 学部：回答不十分のため不明

正規学生か非正規学生か： ①正規 95 (74.8) ②非正規 32 (25.2)

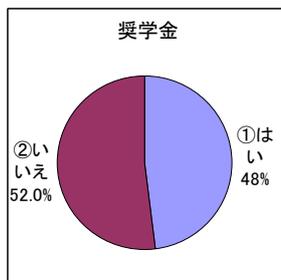
2001年調査では非正規生が少なかったため、この項目はなかった。しかし現在は無視できない数字である。以前との比較では同様の条件をそろえるため「正規生」に焦点を当てることが必要になるので、正規生は個別にソートして結果を得、全体の結果と正規生の結果で異なるものは、その双方を取り上げて2001年結果と比較した。ただし、全ての留学生の環境を整備するセンターとしては、双方を含む全体の結果も重要視する。

1-2. 奨学金受給の有無

①はい 55 (43.3) →正規生(47.4) ②いいえ 72 (56.7) →正規生(52.6)



【図 3-1】 奨学金



【図 3-2】 奨学金(2001)

受給者が非受給者をやや下回っている。[図 3-2]の2001年結果と比べると、全体で受給率が4.7ポイント減少、正規生はほぼ同様であることが分かる。「3-4. どんなことで困っているか」で何年も継続して「お金」が上位に挙げられていることを考えると、奨学金をめぐる状況に改善が見られない点は問題である。

1-3. アルバイトをしているか

①はい 70 (55.1) →正規生(65.3) ②いいえ 57 (44.9) →正規生(34.7)

この項目も全体の結果と正規生のソート結果が異なるので併記する。2001年結果は①「はい」(66.7)で、正規生のみ結果(65.3)では変化はわずかだが、非正規生を加えると11.6ポイント(以下ptと記述)減少となる。これは、非正規生は国からの仕送りを受けている者が多く、アルバイトに多くを頼る者は少ないためである。

IV-3. 住まい

2-1. 現在の住まいは？

①国際交流会館 56 (44.1) ②学生寮 15 (11.8) ③民間アパート 55 (43.3)
④公営住宅 1 (0.8) ⑤その他 0 (0)

国際交流会館と民間アパートに二分されている。留学生による学生寮の利用は11.8%とあまり多くなく、以前と比較しても進んでいない。

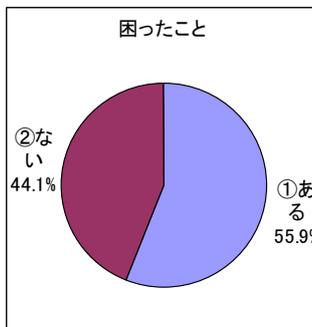
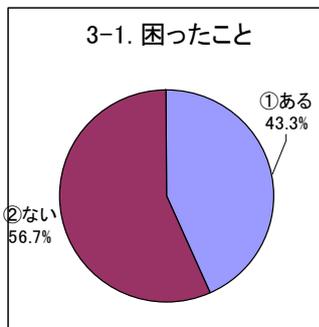
2-2. 家賃は？

①¥9,999以下 57 (44.9) ②¥1万～14,999 13 (10.2) ③¥15千～19,999 5 (3.9)
④¥2万～24,999 15 (11.8) ⑤¥25千～29,999 8 (6.3) ⑥¥3万～34,999 15 (11.8) ⑦
¥35千～39,999 6 (4.7) ⑧¥4万～44,999 3 (2.4) ⑨¥45千以上 5 (3.9)

会館など安価な宿舎の居住者が多いのは当然であるが、月3万以上の宿舎(⑥～⑨)に住んでいる者が22.8%と全体の1/5以上もいることは注目される。

IV-4. 相談

3-1. 入学後、自分一人ではどうしようもないほど困ったことは？



①ある 55 (43.3) ②ない 72 (56.7)

このデータに関しては、2001年結果と比べると①「ある」において12.6ptと大きな減少が見られる。入学後に大きなトラブルに直面する留学生が減りつつあるようである。

[図 4-1] 困ったこと [図 4-2] 困ったこと(2001)

3-2. 困った時にすぐ相談できる人は何人？

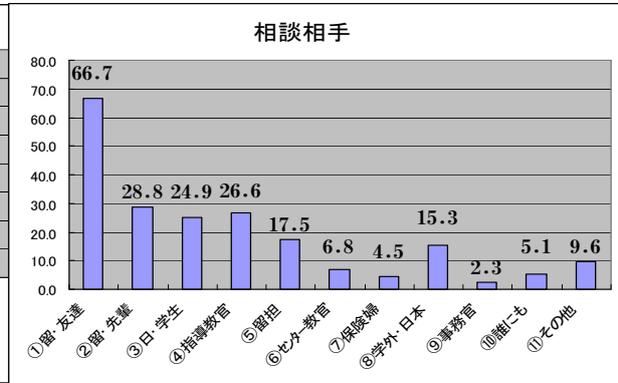
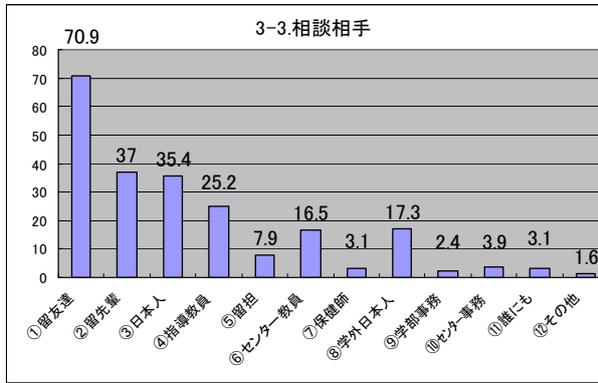
①0人 12 (9.4) ②1～2人 49 (38.6) ③3～4人 41 (32.3)
④5～6人 10 (7.9) ⑤7人以上 15 (11.8)

グラフはあげないが、2001年結果と比較すると、②1～2人は7.2pt減だが、⑤7人以上は7.3pt増加している。相談できる相手が増加傾向にあると考えていいと思われる。

3-3. 困った時に誰に相談するか(複数回答可)

①留学生の友達 90 (70.9) ②留学生の先輩 47 (37.0)
③日本人学生(チューター含む) 45 (35.4) →正規生(26.3) ④指導教員 32 (25.2)

- ⑤学部の留学生担当教員 10 (7.9) ⑥国際交流センター教員 21 (16.5)
 ⑦大学の保健師 4 (3.1) ⑧学外の日本人 22 (17.3) ⑨学部の事務職員 3 (2.4)
 ⑩センター事務職員 5 (3.9) ⑪誰にも相談しない 4 (3.1) ⑫その他 2 (1.6)



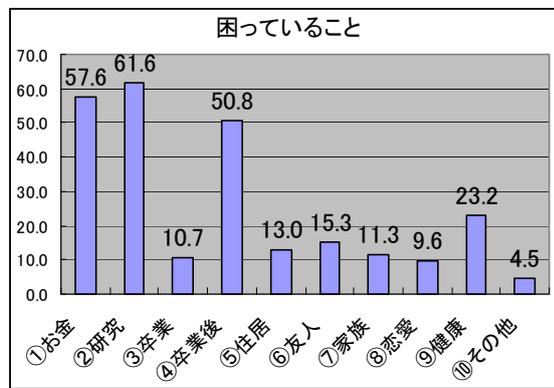
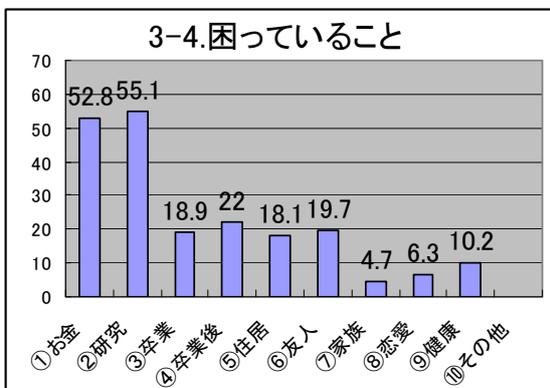
[図 5-1] 困った時の相談相手

[図 5-2] 困った時の相談相手(2001)

比較すると、「③日本人学生に相談する」という回答が 10.5pt も増加していることが注目されるが、正規生のみでは 26.3%と変化が少ない。「⑧学外の日本人」は 2001 年同様 2008 年も 15%以上であり、教職員以外の日本人に相談する留学生が多く存在することが分かる。

3-4. どんなことでよく困っているか (複数回答可)

- ①金 67 (52.8) ②研究・勉強 70 (55.1) →正規生(62.1) ③卒業・修了 24 (18.9)
 ④卒業後・修了後 28 (22.0) ⑤住居 23 (18.1) ⑥友人関係 25 (19.7)
 ⑦家族 6 (4.7) ⑧恋愛 8 (6.3) ⑨自分の健康 13 (10.2) ⑩その他 0



[図 6-1] 困っていること

[図 6-2] 困っていること(2001)

「②研究・勉強」が Top で「①お金」がそれに続くという構図は 1999 年の第 1 回調査から 4 回目となる今回まで不動であり、正規生のみ研究・勉強(62.1)は 2001 年(61.6)とほぼ同様の結果である。留学生が以前同様、この点で苦慮していることが窺える。一方、2001 年結果と比較すると「④卒業後・修了後」が 28.8pt も大きく減少していることが注目される。正規生のみでもほぼ変わらず 22.1%であり、大きな変化が見られる。また、「⑨自分の健康」は 13 ポイントも大きく減少している。健康安全センターの整備・周知を始め、留学生が健康の不安を感じないですむ環境整備が進んでいると考えていいのではないかな。

3-5. 研究・勉強面で、具体的に困っていることは？（複数回答可）。

- ①論文が書けない 28 (22.0) ②講義を聞いても分からない 37 (29.1)
③資料収集の方法が分からない 18 (14.2)
④先生とうまくコミュニケーションがとれない 23 (18.1)
⑤その他 0 ⑥特に困っていることはない 45 (35.4)

2001年結果と比較するとどの項目も減少しており、サポート体制が整備されてきたと見ていいのかもしれない。なお、正規生と非正規生の差はほとんどなかった。

3-6. 大学への要望（自由記述）

A. [お金面] 13件

・奨学金枠の拡大／・授業料免除増加／・「お金」の心配をせずに勉強できる環境整備を 他

B. [支援面] 12件

- ・研究室で差別されている／・研究室で留学生に対する明らかな差別がある。私達がどんなにがんばっても感謝されることはない
- ・とにかく留学生に冷たい／・韓国の学生より中国の学生に冷たい
- ・留学生担当教員に実際の留学生の生活実態を知ってほしい
- ・出席簿等での文字化けをやめてほしい
- ・公営住宅入居時の保証人紹介／・就職の支援
- ・英語で案内をしてほしい／・英語での申請などの書式がほしい。
- ・英語が話せる支援スタッフを採用すべき
- ・効果的な説明会をしてほしい（入学時の授業に関する説明会、授業料と奨学金に関する説明会、バイト探しとアパート探しに関する説明会など）

C. [交流面] 8件

- ・日本人の友人がほしい／・日本人学生と一緒に勉強したい
- ・日本の普通の生活やホームステイをしたい
- ・交流機会を増やしてほしい／・留学生が集まって話せる場所がもっとほしい
- ・人間関係をうまくやりたい／・松本以外の学部では交流が少ない
- ・留学生が日本文化、日本を知る旅行や交流活動が年々減少。もっと増やしてほしい。

D. [勉学面] 7件

- ・研究指導のチューター必要／・卒業の支援
- ・4年次にビジネス日本語や敬語の授業／・専攻に入ってから指導
- ・授業やテストの内容が分かるようになりたい
- ・院では最低でも1つは英語の授業をして、日本人学生の英語力を上げるべき 他

E. [施設整備面] 5件

- ・図書館をもっと使いやすくしてほしい／・Net利用の場所・時間の増加
- ・全学部を1つのキャンパスに／・設備が不十分／・生協が高い

F. [宿舍面] 3件

- ・会館にもう一年住みたい／・部屋数を増やしてほしい

・会館を農学部・繊維学部にも設置してほしい。

今回初めて行った自由記述による要望の集計だが、興味深いコメントが集まった。F. [宿舎面]への要望が3件と少なく、B. [支援面]、C. [交流面]の要望が多く見られた。ただし宿舎への要望が本当に少ないのではなく、留学生が「宿舎への要望を言っても、これまで同様に改善されない」と考えている可能性がある。またアンケート結果ではないが、留学生とのディスカッションの中で出てきた意見に「大学の寮内で日本人グループと留学生グループの反目がある」というものがあり、これに多くの留学生が賛同していた。

IV-5. 日本語能力

4-1. 自分の日本語能力への自信

①ある 23(18.1) →正規生(21.1) ②まあまあ 87(67.5) ③ない 17(13.4) →正規生(9.5)

全体と正規生の結果にやや差があるが、2001 結果(ある 31.1、まあまあ 53.1、ない 15.8)と比較すると、全体的に日本語に自信を持つ留学生が減っているようである。

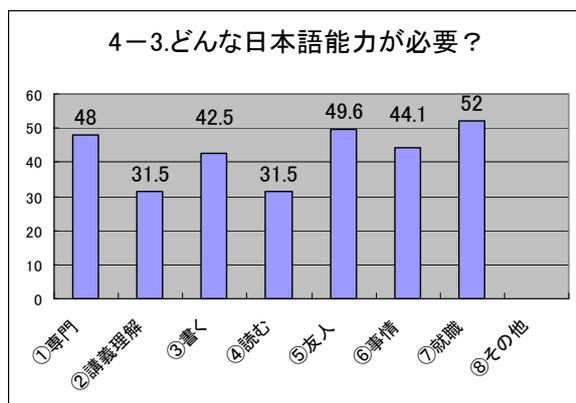
4-2. もっと日本語の授業を多く受けたいか

①必要ない 12 (9.4) ②今のままで十分 43 (33.9) ③受けたい 72 (56.7)

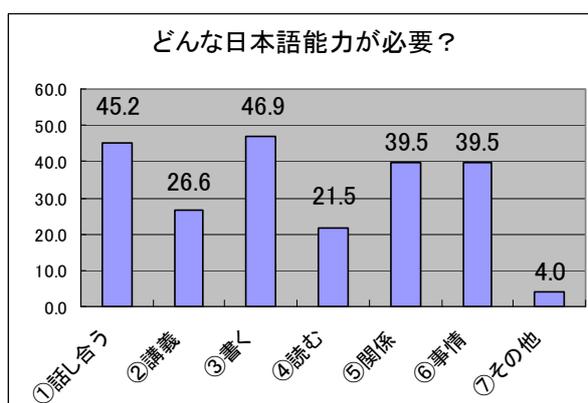
2001 結果から「受けたい」が 8.8pt 減少している。4-1. でやや自信が減少したと見られるのに「受けたい」が減少したのは、国際交流センター発足後、留学生が受講できる日本語の授業数が増加したことと関連があるのではないかと考えられる。正規生との差はわずかである。

4-3. どのような日本語能力を身につけたいか (複数回答可)。

- ①先生等と専門について話し合う能力 61 (48.0) ②講義を理解できる能力 40 (31.5)
 ③論文を書く能力 54 (42.5) ④論文を読む能力 40 (31.5)
 ⑤日本人との友人関係を深めていける能力 63 (49.6)
 ⑥日本事情・文化や日本人の考え方をよく知る 56 (44.1)
 ⑦就職に役立つビジネス日本語能力 66 (52.0) ⑧その他 0



[図 7-1] どのような日本語能力が必要か



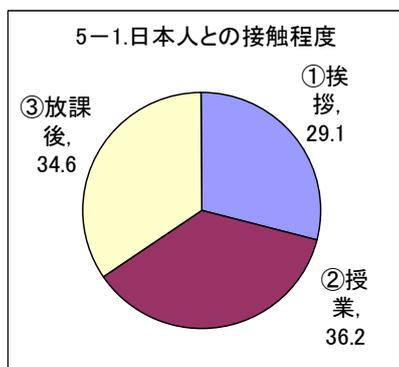
[図 7-2] どのような授業を受けたいか(2001)

この項目について 2001 年結果と比較すると、ほぼ全体的に近い結果であることに気づく。ただし新たな項目であるビジネス日本語は半数以上の留学生が必要としている。

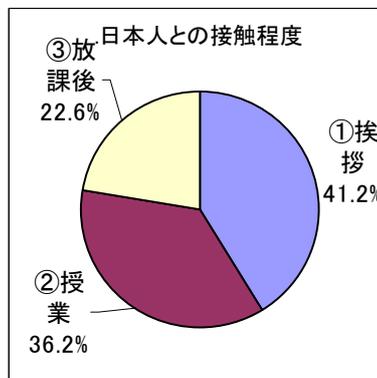
IV-6. 日本人とのコミュニケーション

5-1. 日本人学生とどの程度接触しているか

- ①あいさつのみ 37 (29.1) ②授業ではよく話す但し休みに会うほどではない 46 (36.2)
 ③放課後や休日に会ったり食事をする 44 (34.6)



【図 8-1】日本人との付き合い方



【図 8-2】日本人との付き合い方(2001)

2001年結果と比較すると、「①あいさつ」のみが 12.1pt 減少し、③の「放課後」などでの深い付き合いが 12pt 増加している。

5-2. 今後、日本人と接触する機会を持ちたいか

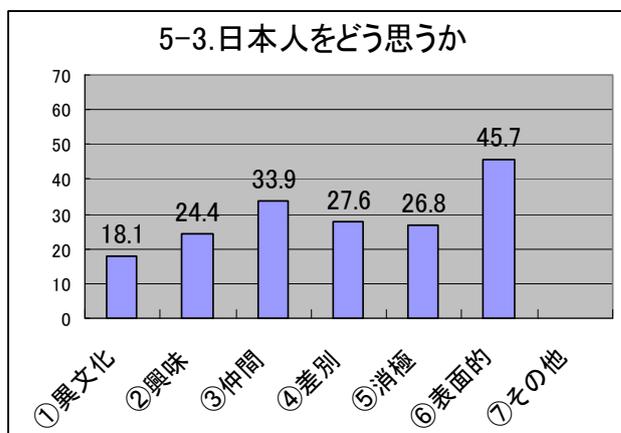
- ①持ちたい 112 (88.2) ②それほど持ちたくない 15 (11.8)

この項目に関しては 2001 年結果とほぼ同様である。

5-3. 日本人について、どう考えているか (複数回答可)

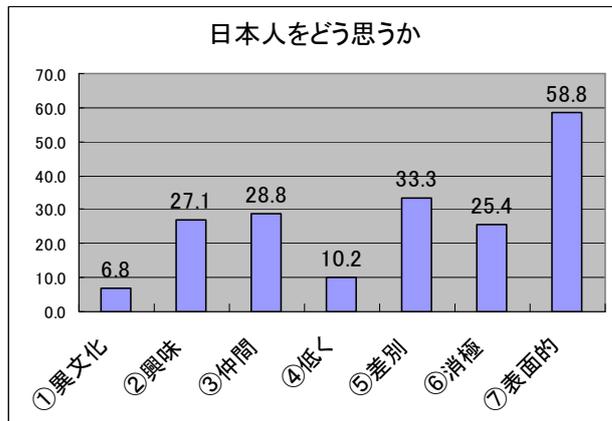
- ①異文化をよく理解 23 (18.1) ②自分の国に興味 31 (24.4)
 ③私を仲間として受け入れ 43 (33.9) ④留学生の国による差別あり 35 (27.6)
 →正規生(32.6) ⑤留学生との交流に消極的 34 (26.8)
 ⑥表面的な付き合い、親友は困難 58 (45.7) ⑦その他

・恥ずかしがり屋が多い／・人それぞれ



【図 9-1】日本人の印象

- ・一部の日本人は外国人とどう付き合いえばいいかわからないため無視する。
 - ・時々、日本人は何か言わなければならないと思って話しかけてくる。
 - ・日本人の若者は一般的に、あまり積極的ではない。
 - ・ある年齢を超えた人たちは外国人に対して積極的で、親切に対応する。
 - ・自分の国に対して優越感を持ち過ぎの面がある(特にアジア諸国に対し)。
- など



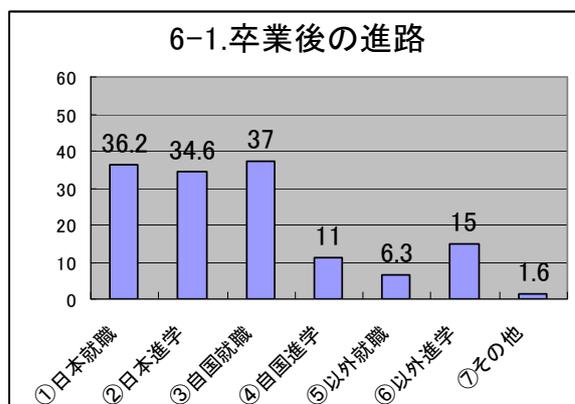
[図 9-2] 日本人の印象(2001)

2001年と2008年の2つのデータを比較すると、「①異文化をよく理解」で11.3pt増、「③仲間として受入」で5.1pt増、「④差別あり」が5.7pt減(ただし正規生はほぼ変化なし)、「⑥表面的な付き合い」が13.1ptも大きく減少している。「⑦その他」には否定的なコメントもあるが、全体的に留学生の日本人観は2001年当時よりやや改善していると考えていいのではないかと考えられている。

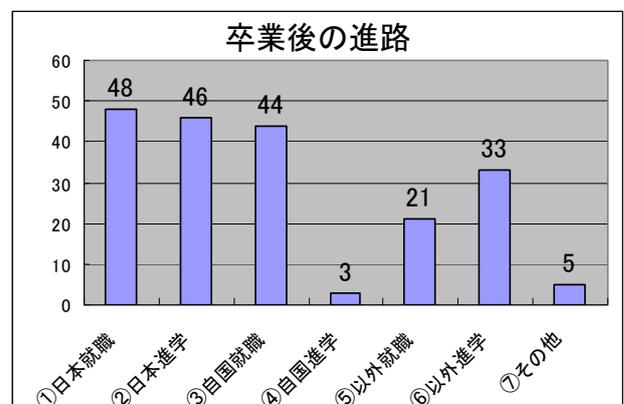
IV-7. 卒業(修了)後の予定

6-1. 卒業(修了)後の進路(複数回答可)

- ①日本で就職 46(36.2) →正規生(40) ②日本で進学 44(34.6) ③自国で就職 47(37.0)
 ④自国で進学 14(11.0) →正規生(2.1) ⑤日本・自国以外で就職 8(6.3)
 ⑥日本・自国以外で進学 19(15.0) ⑦その他 2(1.6)



[図 10-1] 卒業後の進路



[図 10-2] 卒業後の進路(2001)

2001 結果と比べると、「①日本での就職」が 11.8pt 減という結果になった(正規生 8pt 減)。2008 結果をみると「①日本・就職」「②日本・進学」「③自国・就職」がほぼ並んでいる状況で、留学生はその3つのうち1つを選ぶ者が多いようだ。一方、全体と正規生で大きな差が見られるのが「④自国で進学」で、非正規生にこの希望が多いことが分かる。

6-2.就職へのサポート体制に対する意見・要望(6-1で①を選択した者対象)

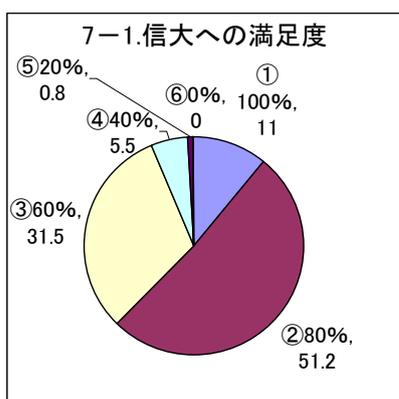
- ・就職の適性検査対策、留学生向け就職指導／・2,3年生の時インターンする会社の紹介
- ・支援が不十分／・先輩の話を聞く場を設けてほしい
- ・以前の留学生の就職データがほしい

現状では就職支援に対する不満が留学生の中に顕在すると言える結果である。

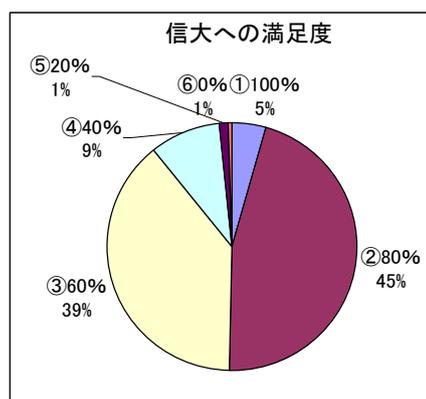
IV-8. 信大への満足度

7-1. 信大に対する満足度 (パーセンテージで回答)

①満足度 100% 14 (11.0) →正規生(6.3) ②満足度 80% 65 (51.2) ③満足度 60% 40 (31.5)
 ④満足度 40% 7 (5.5) ⑤満足度 20% 1 (0.8) ⑥満足度 0% 0 (0)



[図 11-1] 信大への満足度



[図 11-2] 信大への満足度(2001)

100%満足が 6pt 増 (正規生はほぼ同様)、80%満足が 6.2pt 増、40%満足 (やや不満) が 5.5pt 減と、満足度が 2001 年当時よりやや向上していることがうかがえる。

7-2. (7-1. で満足度 60%より上とした人に) どのようなことに満足か?

- ・留学生に親切 (教員&事務員&制度) 55
- ・学習環境がいい (研究設備&自然&雰囲気) 33
- ・学校が市役所と一体になって学生のことを考えていることはとっても大事
- ・交流の機会が多い 8 / ・国際交流会館がある 6
- ・チューター制度 / ・いい外国体験。現代と伝統のバランスがいい
- ・環境がよく留学生に親切でセンターは Friendly だ。日本語の授業もいい
- ・松本自体も落ち着いている町なので、住みやすい

「学習および自然環境がいい」という回答が非常に多かった。また、交流に関する体制への評価も高かった。松本市そのものへの評価も高いようである。

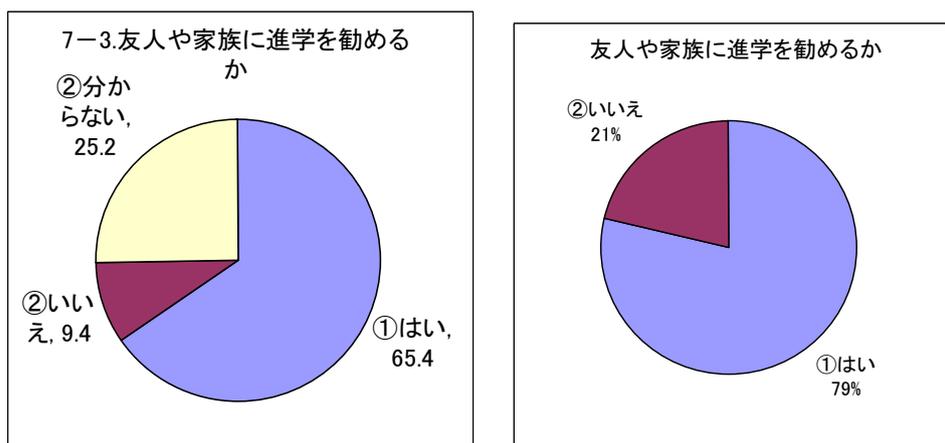
7-3. (7-1. で満足度 40%より下とした人に) どのようなことが不満か?

- ・先生や他の学生からの差別、冷たい視線を常にかけている
- ・夏は会館が暑くて勉強できない / ・住居設備が不十分 / ・会館居住時間が短い
- ・勉強の雰囲気があまりない / ・熱心に勉強する姿が見えない
- ・非常にいいと思う点がない / ・研究・勉強のサポート不足
- ・他大学より奨学金が厳しい / ・生活面の支援がほとんどない
- ・授業料が高い / ・受ける日本語の授業が少ない
- ・設備が古い / ・本当に面白いと思う授業がない
- ・交換留学で来て非常にうれしいが、日本人学生との接触が少ない

こちらは信大に不満を感じている留学生からのコメントであり、数は少ないが、3-6. 大学への要望でも見られた「差別」に通じるものなどもあり看過できない。こちらには、「お金」同様に宿舎に関する不満が多い点も注視すべきである。

7-4. あなたの国にいる友人や家族に信大への留学をすすめるか

①はい 83(65.4) ②いいえ 12(9.4) ③わからない 32(25.2)



[図 12-1] 信大への進学を勧めるか [図 12-2] 信大への進学を勧めるか(2001)

2001年調査にはなかった「③わからない」という項目を加えたところ、全体の1/4がこの項目を選択するという結果になった。

V. 分析と提言

以下、これまで述べてきた結果をもとに、さらに踏み込んだ分析と提言を行いたい。

V-1. 奨学金

3-6.や 7-3.に見られるように「お金」問題への要望・不満は 2001 年当時と比較しても減少しておらず継続している。それでありながら奨学金の受給率はやや減少しているのが現状であり、信大としても「日本経済全体の不況のため」などと諦観しているのではなく、留学生の「お金」問題の解決のために効果的な手を打っていく必要があるのではないだろうか。具体的には

- A. 日本国内で行われている奨学金を徹底的に精査し、信大の留学生が申請できるものを探して申請させていく。その申請実績が今後の採用実績につながる。
- B. 奨学金の申請書類の書き方、面接の受け方などの指導を行う。
- C. 国税庁認可の NPO 法人としての留学生支援団体を作り、税金優遇制度を活用して留学生を多数採用している企業などを対象に寄付金募集活動を行う。

などの試みを始めてはどうだろうか。

V-2. 交換留学生と正規留学生

考察の中で何回かコメントしたが、2001 年当時と現在との大きな相違点は 30 名以上の

非正規生、特に交換留学生在が存在することで、今回の調査でも彼らの日本語能力や就職傾向等が全体の結果に反映している。交換留學生は日本語が初級レベルでも入学でき、多くは国からの仕送りを得て生活し、自国に戻って卒業してから自国の大学院進学または就職をする。信大の正規生とは大きく異なるグループである。交換留學生が卒業後に信大の大学院に戻ってくる可能性はあり、センターとしてその努力を続けているが、留學生支援の視点は、あくまでも信大の学位をとって日本に残る(大学院または就職)可能性が大きい正規生に置くべきであろう。

それには、センターよりも正規生が所属する各部局が留學生に対しどのような意識を持ち、どのような体制で支援を行っているか自らを検証する必要があるのではないだろうか。これからの時代は、留學生を以前のように「勉強し終わったら国に帰る存在」としてではなく、「日本人学生と共に日本という国を造っていく存在」として捉えるようになっていく。彼らは重要な日本社会の構成員になるのである。「面倒だ」「手がかかる」とマイナス面ばかり着目するのではなく、「将来への投資」「自分自身なら外国で同様にできるだろうか」のように見る意識改革が日本人教職員の側に必要ではないかと考える。

V-3. 宿舎

宿舎問題は、日本国内で留學生の本格的受入れが始まった当初から継続しているものであり抜本的な解決策を見出すのは容易ではない。しかし、宿舎問題が解決すれば同時に留學生の最大の悩みである「お金」問題も大きく軽減する。つまり、この2つの問題はセットで解決できる。センターとしてこれまで取り組んできた宿舎問題への対応策は以下のようなものである。

- A. アパートの2年間分の家賃を大学が一括して前払いし、その2年間は複数の学生に居住させる(1年×2名または半年×4名)。同時に敷金および礼金は大学が負担し、学生は家賃のみを支払えばいい。この「借り上げ」方式実施により、安定して宿舎供給ができ、かつ留學生の敷金・礼金支払負担を軽減させている。
- B. 国際交流会館の管理人室を改装し、指導寮生2名を居住させる(2室が純増)。
- C. 使用されなくなっていた大学の宿舎を改装し、留學生5名を居住させる。

この他にも今後の重要施策として、空室が目立つ教職員向け宿舎の留學生への貸し出しなどに取り組んでいる。松本以外のキャンパスにおいても留學生の宿舎問題は深刻であるが、松本キャンパスで教職員宿舎の使用許可が出た場合、他のキャンパスにも広がる可能性が十分にある。このことが実現した場合留學生と教職員への同居が始まるので、留學生に対する十分な団体生活指導が欠かせない。しかし同時にこれは非常に有効な「日本事情指導」であり、将来の多文化共生社会実現にもつながるものであろう。

V-4. 相談

3-1. から深刻な悩みに直面するケースが減っていること、3-2. から相談できる相手が増加傾向にあることが推測される。また、3-4. から「健康」の悩みが減少していることも見てとれ、留學生をめぐる環境整備が一定の成果を上げていることがうかがえる。しかし同じ

く 3-4. から、留学生が悩んでいる内容はこの 8 年間で変化がなく、「研究・勉強」と「お金」が継続して特に大きな問題であることが分かる。また、「お金」の悩みがさらに増えていることも見てとれる。V-1 と V-3 で述べた努力が必要であろう。

また、3-6. の「大学への要望（自由記述）」では、数は少ないが留学生の生の声を聞くことができた。

特に B. [支援面]には、「差別されている」「冷たい」といったメンタルトラブルにつながる深刻な実態の訴えも見出された。留学生が所属する部局では、そういった心理状態に落ち込んでいる者がいないか注視する必要がある。同時に、そのように思わせる環境を改善していかなければならない。また「出席簿での文字化け」なども、しかるべき事務上の処理で対応可能なものである。さらに「(有効な)説明会の実施」をみると、何年も変わらぬ形式で漫然とした説明会を実施していないか、自らの活動を省みる必要も感じさせられる。加えて、日本語能力が十分ではない留学生への英語での支援体制整備も、翻訳ソフトなどの活用で進め、現状より一歩前進を目指してはどうだろうか。

C. [交流面]にも「集まって話せる場所」、「日本人学生の交流深化」という以前から変わらぬ要望が見られる。異文化サロンの設置などで応えていかなければならないだろう。

D. [勉学面]のコメントのうち、「ビジネス日本語」指導に関してはセンターとして真剣に取り組んでいきたい。「(高学年での)研究指導チューター」に関しては、留学生・日本人学生を問わず、部局で設置に向けて検討していただければ幸いである。

E. [施設整備面]での図書館と Net 利用に関しては、担当部局が改善に向けて鋭意努力しており、今後の満足度の向上が期待される。

V-5. 日本語能力

全体的には日本語に自信を持ってない者がやや増加しているが、日本語・日本事情科目においてもセンターの日本理解科目においても 2008 年度から授業科目数が増えている。よって留学生の選択肢は確実に増えており、2001 年当時より体制整備はかなり進んでいる。しかし未解決なのが V-4. でも述べた「ビジネス日本語」である。就職活動と実際のビジネス場面で使われる日本語を指導する授業を主に 3,4 年生を対象に日本語・日本事情科目の中に設けることが望まれている。

V-6. 日本人とのコミュニケーション

V-4. の C. [交流面]では「日本人学生との交流の機会が少ない」というコメントが見られたが、今回の調査結果と 2001 年調査結果を比較すると、日本人との交流の機会、さらに深い付き合いが増加していることが見てとれる。それは 3-3. 相談相手で「日本人学生」を選択した留学生が増加していることから言える。また、5-3. 日本人をどう思うかでも日本人への好印象が 2001 年より明らかに増加している。特に、2001 年は「表面的な付き合いだけで親友にはなれない」が 60%近かったが、今回は 5 割を切っている。後述する信大の満足度においても「留学生に親切だ」と答えた者が非常に多かった。

留学生と日本人学生との交流に関しては、センターとしても COWIS（留学生と日本人

学生との交流サークル) 設置やより交流を深める旅行の実施などで交流機会を増やすよう努力してきた。各部局の努力と合わせ、その成果が見えてきたと言っていいだろう。

V-7. 卒業(修了)後の予定

「日本での就職」「日本での進学」「母国での就職」がほぼ横並びという結果になった。

留学生30万人計画の骨子が、優秀な在住外国人である留学生に将来「日本社会の構成員」になってもらうことであることを考えると、日本での就職希望を持っている留学生にしっかり就職活動支援をし、長く勤められる就職口に行かせることは、信大全体にとっても大きな意義があることだと言えるのではないだろうか。

V-8. 信大への満足度

2001 結果と単純比較すると、信大に満足感を持っている留学生が増加しているようである。100%満足と 80%満足を選択した者が増加している。満足とした内容については「教員または事務員または制度が留学生に親切」と答えた者が 55 名(43.3%)もいた。全体としては、親身になって留学生をサポートする関係者が信大には多いようであり、制度的にも悪くなさそうである。「学習環境がよい」と答えた者の多くは信州の自然の素晴らしさに言及している。清澄な空気と緑の中で勉強・研究できることを喜んでいるようだ。卒業生で松本や信州を離れた者からも、「信州の自然が懐かしい」という声を聞くことは多い。「交流の機会が多い」「学校と市役所が一体」というコメントもあった。学外の組織であるが、松本市役所が事務局を勤める「松本留学生応援ファミリーの会」の存在は、信大の留学生および留学生関係者が心から感謝すべきものである。同会は年間数十万の予算を使って年 10 回ほどの手間・時間・「お金」がかかる交流活動を留学生のために実施してくれている。信大独自で行っている活動と合わせると、信大の留学生が参加できる活動数は全国でも有数のものになるのではないか。またファミリーの会メンバーは、留学生の保証人になる、緊急事態での資金援助をする等で大変な貢献をしてくださっている。

一方、不満を感じている者に目を向けてみると、国際交流会館の居住環境や研究面での支援不足を挙げている者が多い。他に奨学金、差別なども挙げられている。すぐに解決できるものは少ないが、3年程度での状況改善を目標に努力を進めていくべきだろう。

最後に、7-4. 信大を自国の友人や家族に薦めるかという問いに対し、25.2%、つまり全体の4分の1の者が「分からない」と回答した。7-1. の満足度の高さを鵜呑みにできない理由はこのデータにある。「自分はある程度満足だが、知り合いにまで入学を薦めるのはどうか…」という意識の者が多いのではないか。薦めるのまでは躊躇する何らかの原因があるのだろう。その原因を突き止めて解消し、この回答に対して「分からない」が 10%程度、「はい」が 75%程度になるようであれば、信大が留学生にとって真に幸せな大学だと言えるようになるであろう。

VI. 今後の展望

これまで、2008 年 11 月から 12 月に行われた信大の留学生へのニーズ調査結果の分析と、2001 年に行われた同調査の比較を行ってきた。その結果、7年前に比して改善が進ん

だ点、ほとんど改善されていない点が浮き彫りになってきた。改善されていない点については、国際交流センター、国際交流課、留学生の所属部局の留学生担当者が連携して解決すると同時に、各部局が独自に自らの仕事の進め方を検証して成果を挙げていくことが必要だろう。

この調査は、3年程度の間において再度実施しようと計画している。その時点においても今回と同様に重要項目が「改善されていない」という分析結果が出る場合、信大の留学生受入態勢に組織的に問題があるということになるだろう。

本調査の進め方、分析の仕方については問題点が多く存在している。次回の調査では今回の二の轍を踏まぬよう意識して実施することにする。

参考文献

- 日本語教育学会 1991「第2章 ニーズ分析」『日本語教育機関におけるコースデザイン』 凡人社
- 佐々木瑞枝 1995「日本語教育におけるニーズ・アナリシスとカリキュラム・デザイン」
『横浜国立大学留学生センター紀要』第2号
- 佐藤友則 1998「韓国および台湾の日本語学習者のニーズ調査」
『東北大学言語学科論集』 第2号
- 小川・小宮・高橋他 1998「留学初期における学習者像把握のための調査報告」
『筑波大学留学生センター 日本語教育論集』第13号
- 若林秀明 1999「オーストラリアの大学におけるニーズ分析」
『世界の日本語教育』 第9号
- 佐藤・秋庭 2000「信州大学の留学生のニーズ調査—1999年10月・11月調査において—」
『信州大学留学生センター紀要』第1号
- 永井・徳井・牧 2000「留学生の日本人に対する意識変化とその影響要因としての地域の役割について」
『JAFSA 調査・研究助成プログラム調査・研究報告書』
- 佐藤・秋庭 2001「第2回信州大学の留学生のニーズ調査—2000年11月・12月調査において—」
『信州大学留学生センター紀要』第2号
- 岸田 由美 2004「理系大学院留学生の生活とニーズに関する事例研究：金沢大学留学生生活実態調査の分析より」『金沢大学留学生センター紀要』7
- サベット・メヘラン 2009「聖学院大学外国人留学生の現状調査」
『聖学院大学論叢』第21巻（第2号）